

## ケースメソッド教育について

この内容については、「ビジネススクール・テキスト 人的資源マネジメント戦略」(有斐閣,2004)を中心に、日本におけるケースメソッド教育の普及と発展の先導的な役割を果たしている慶應ビジネス・スクールの高木 晴夫教授の文献を参考に構成しています。

文責:慶應ビジネススクール 国保祥子(akokubo@hc.cc.keio.ac.jp)



## ケースメソッドの歴史

- ⊕ ハーバード大学のロースクールで行われていた、実際の判例を用いたディスカッション授業



- ⊕ ハーバード大学ビジネススクールが、実践的な経営教育の方法として開発



- ⊕ 慶應ビジネススクールが主な教育方法として採用し、翻訳および独自ケースを多数開発。MBAは1年で約200本のケースをこなす。

## ケースとは

- ⊕ 経営に関連した客観的な事実とデータのみが記述されている資料。意思決定を左右する作成者の分析や評価は含まない。
- ⊕ KBSのケースはディスカッション授業で使うことを目的に作られているため、読むだけでは学びが少ないことも。他者とディスカッションすることでその真価が発揮される。
- ⊕ ケース購入 : <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/>

## ケースメソッドの学習手順

個人での予習

授業に先立って、ケースをよく読み、設問に対する個人の意見を整理しておく

グループ・ディスカッション

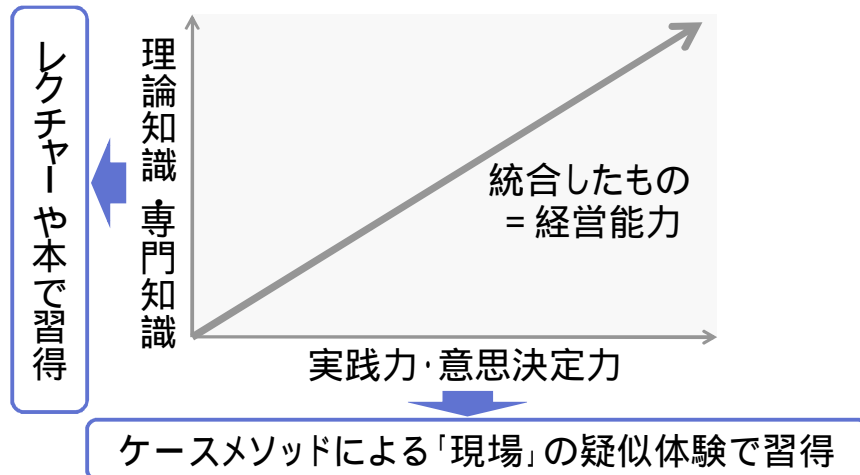
個人の予習をベースに少人数で討議し、各自の意見をブラッシュアップしておく

クラス・ディスカッション

講師のリードのもとに、大人数で討議して、より多くの意見を交換する

## ケースメソッドで習得する能力

- ⊕ 経営能力は知識と実践力の相互作用で伸びる



Copyright©2008 Akiko Kokubo, KEIO Business School

5

## ケースメソッドの目的

- ⊕ 他者の意見を聞くことで、視野が広まる
- ✕
- ⊕ 自分の意見を述べることで、深く考えられる
- ↓
- ⊕ ディスカッション授業を通じて、自分の思考の枠組みを、より広く深いものに再構築することができる

ケースメソッド教育では、判断の正しさではなく、その判断に至る「思考プロセス」を鍛えることが目的

Copyright©2008 Akiko Kokubo, KEIO Business School

6

## ケースメソッド授業に関する注意事項

- ⊕ 各自の思考プロセスを鍛えることが目的なので、「正解」を探さないこと。(経営の「正解」って何…?)
- ⊕ ケース中の限られた経営情報での意思決定を心がける。(実際の経営現場で、100%の情報を持てるものでしょうか?)
- ⊕ たかが疑似体験、されど疑似体験。当事者意識を持つことが深い学びにつながります。(そのためには、十分な予習とクラスでの積極的な発言が重要です)